

## 我が校の強み弱み分析・評価シート

大津市立堅田中学校

### ○調査目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 【結果について】

#### 《概要》

国語、数学、英語ともに、全国や滋賀県の平均正答率を上回る結果でした。また、無解答率も、全国や滋賀県より低い問題も多く、良い傾向がみられました。特に、「知識・技能」に関する問題は、全国や滋賀県の平均正答率よりも高い問題が多くありました。一方で、「思考・判断・表現」に関する問題や、記述式の問題では、全国や滋賀県と比較して平均正答率が低い傾向がありました。生徒質問紙から、授業以外の平日の学習時間が2時間以上の回答が全国平均よりも9ポイント高く、また、授業でのICT活用の使用頻度も全国平均を大きく上回る値でした。

#### 《強み》

- ☆国語、数学、英語とも、「知識・技能」を問う問題は全国の平均正答率を上回っていました。
- ☆国語では、「思考・判断・表現」を問う問題も、全国の平均正答率を上回っている問題が見られました。
- ☆数学では、「数と式」「関数」に関する問題で、全国の平均正答率を上回っている問題が多くありました。質問紙の結果より、数学に対して肯定的（好き・大切・社会に出たときに役立つ）な意見を持つ生徒が多くみられました。
- ☆英語では、家庭学習で英語を聞いたり話したりする練習を月1回以上している割合が全国平均よりも20ポイントほど高く、リスニングの問題の平均正答率が全国と比較してかなり高くなっていました。
- ☆平日どのくらい勉強時間を確保できているかを問う質問において、昨年と比べて「2時間以上」取り組む生徒が11%増加していました。それと同時に、「1時間以下」の生徒は7%減少しており、学力調査の結果と合わせても明らかな関連性が見られました。
- ☆ICT機器の活用については、95%の生徒が週の半分以上の授業で活用していると回答しました。授業にICT機器を活用してきたことが反映されており、今後も抵抗感なく活動に通じ組める土壌が養われています。

#### 《弱み》

- ★国語では、自分の考えを条件に沿って書くことに課題が見られました。
- ★数学では、「図形」や「データの活用」の問題で無解答率が高く、苦手意識がみられました。
- ★英語では、記述式問題で、全国の平均正答率を下回っており、無解答率も高いという結果でした。自分の考えを英語で表現することが苦手な生徒が多いと考えられます。
- ★自己の認識や他人との関わりに対する回答から、自己存在感や自己有用感の低さが見てとれました。中でも、「自分には、よいところがあると思いますか」との質問に、「当てはまる」と回答した生徒は30%にとどまりました。

### 【指導の充実に向けて】

- \*国語では、漢字を書くことに関しては、常用漢字の活用を1年生から行っており、その結果が表れたと考えられます。今後も常用漢字を積極的に活用していきます。自分の考えを条件に沿って書くことを課題とする生徒が多く見られたので、条件に沿って作文を書く問題や、タブレットを活用したレポートの作成に力を入れた指導を行っていきます。
- \*数学では、今後も学習内容を定着させるための継続した反復学習を大切にするとともに、思考力や表現力を高めるために、お互いの考え方を交流させたり、論理的にまとめ、発表する場面を増やしていきます。
- \*英語では、「聞く」「読む」に関しては、より長い英文を聞いたり読んだりする機会を増やします。また、聞いたり読んだりしたことについて要点を整理し、英語を通してそれぞれの考えを交流する場面を設定したり、授業内で「書く」活動を行ったことで、自身の考えを英語で表現する力の向上を図ります。
- \*家庭学習の習慣をつけるために、学校で学習したことの復習や、予習に役立つ課題を工夫し、提供できるよう努めます。
- \*ICT機器の活用の質的な向上に取り組み、生徒の学びを保障し、学習意欲が高まる授業づくりを進めていきます。